

南山大学人類学博物館

年 報

2020 年度

南山大学人類学博物館

巻頭言

昨年は、人類学博物館の事業の多くがオンラインで実施された。博物館講座、名古屋大学博物館との連携講座、明治大学博物館との共同開催のシンポジウム等、対面での開催ができないものは全てである。また、例年開催している企画展も、その多くをWeb展示とした。

当初は、オンラインでこうした場を提供することに戸惑いや違和感も少なからずあったのだが、いざ始めてみると、博物館にとっても意外にメリットがあることがわかってきた。その第一は、講座やシンポジウムへの参加者の変化である。数としてはそれほど増えていないのだが、通常の対面での講座やシンポジウム等よりも広範囲から参加してもらうことができたことにやや驚きを感じたのである。

考えてみれば当然のことで、オンラインの講座やシンポジウムであれば海外のゲストを呼ぶこともできるし、また録画して後で配信すれば当日見逃した人、あるいは繰り返し見たい人のニーズに応えることができる。これは、コロナ禍が終息したとしても、今後も博物館活動の中では活用すべきことである。

そうなると、これからの学芸員には資料の取り扱いや展示の企画、学習プログラム作りのスキルに加えて、デジタル・コンテンツの企画・製作・配信に関するリテラシーが求められてくることになる。しかし、そうしたスキルを教える科目は現状の学芸員養成課程のプログラムでは視聴覚メディア論しかなく、この部分の充実を図ることが必要かもしれない。

ただ、それは若い世代には「釈迦に説法」ともいえるかもしれない。というのは、昨年度の博物館実習において受講学生にWeb展示の企画と製作、オンライン用の学習プログラムの作成を課題として出したが、確かに出来不出来はあるものの、総じて学生たちは高いレベルで製作することができていた。デジタルが当たり前の世代の前には、ちょっとした作り方のコツのようなものを示してやればそれでよいのかもしれない。

しかし、それにしても思うのは、日本の博物館に比べての海外の博物館のWebサイトの充実ぶりである。時間と資金と労力のかけ方はもはや異次元といってもよいかもしれない。それだけ、インターネットとデジタル・コンテンツの威力を知っているということだろう。日本でもデジタル庁なるものの設置が進められているが、その前に例えばサーバーの性能を上げるとか、Wi-Fiの利用を進めるなどの方策もあるだろう。何よりもコンテンツの充実に対する資金援助が必要なのは言うまでもない。

日本の博物館が世界の博物館に比肩しうるかどうかは、ここにかかっている。

2021年 5月
南山大学人類学博物館

目次

1. 2020年度の人類学博物館の活動	
(1) 教育普及活動	1
①museum notes 配信	1
②Web企画展	1
③明治大学博物館・南山大学人類学博物館協定事業	1
④フィールドワーク	2
⑤博物館講座	2
⑥名古屋大学博物館連携講座	2
⑦博物館実習（他大学より受入）	3
⑧南山中学・高等学校男子部でのサテライト展示	3
(2) 調査・研究活動	3
(3) 研究協力	3
(4) 資料の収集・整備と利用	3
①受贈資料	3
②燻蒸の実施	3
③購入図書	4
④受贈図書数	4
⑤資料貸出	4
⑥取材・調査	4
⑦撮影・他機関刊行物等への掲載	4
(5) 出版活動	6
2. 人類学博物館の「理念」・「使命と役割」・「資料収集方針」の策定	
(1) 「理念」・「使命と役割」	7
①経緯とワーキンググループ	7
②「理念」および「使命と役割」	7
(2) 資料収集方針	8
①経緯	8
②人類学博物館資料収集方針	8
(3) 展示パネル・クリアファイル・リーフレットの更新	8
3. 組織と運営	
(1) 組織	10
(2) 開館・入館者実績	10
4. 規程	
(1) 南山大学人類学博物館規程	10
(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程	12
(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程	13
(4) 南山大学人類学博物館ボランティア規程	14

1. 2020年度の人類学博物館の活動

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年4月14日より臨時休館となった。休館中、WEBページ上で配信できる新しい企画、活動を始めた。

(1) 教育普及活動

①「museum notes」配信

新館報として、人類学博物館の資料を人類学博物館WEBページ「活動紹介」に掲載

- ・Vol.1 2020年 6月20日（土）～ 執筆者：黒澤浩（本学人文学部教授）
井原瑠梨（人類学博物館学芸員）
秦優莉香（人類学博物館学芸員）
- ・Vol.2 2020年10月31日（土）～ 執筆者：井原瑠梨（人類学博物館学芸員）
秦優莉香（人類学博物館学芸員）
- ・Vol.3 2021年 2月 4日（木）～ 執筆者：井原瑠梨（人類学博物館学芸員）
湯屋秀捷（南山大学大学院）

②WEB企画展「仮想展覧会」配信

◆学芸員による展示

- ・第一弾 「インドネシアの布展」 2020年 6月10日（水）～
- ・第二弾 「おかえり！今泉コレクション！」 2020年 8月 5日（水）～

◆博物館実習生による展示

- ・特別編 「学芸員のおすすめのイッピン展」 2020年 9月 5日（水）～
- ・特別編2 「博物館実習生によるウェブ企画展」 2020年10月14日（水）～

③明治大学博物館・南山大学人類学博物館協定事業

◆オンライン交換展示

- ・期 間：2020年9月26日（土）～11月3日（日）
- ・開催方法：両館のWEBページにて、お互いの資料を紹介する
- ・テ ー マ：明治大学博物館配信「ユーミエン族の文献と神画」
南山大学人類学博物館配信「祈りの人形・土偶」

◆在校生向け特別講義

- ・南山大学生向け：5月開催予定であったが新型コロナウイルスの影響により中止
- ・明治大学生向け：11月27日（金）Zoom利用
講義担当 黒澤浩（南山大学人文学部教授）

◆明治大学博物館・南山大学人類学博物館協定事業シンポジウム 参加者90名

- ・主 催：明治大学博物館、南山大学人類学博物館
- ・開催方法：Zoom ウェビナー利用
- ・日 時：2020年12月7日（月）13:00～17:30
- ・テーマ：「今、博物館は何をすべきか --コロナ以後の持続可能性を考える--」
- ・コーディネーター：黒澤浩（南山大学人文学部教授）
- ・パネリスト：井上由佳（明治大学文学部専任准教授）
緒方泉（九州産業大学地域共創学部教授）
広瀬浩二郎（国立民族学博物館グローバル現象研究部准教授）

④フィールドワーク

当初予定していた人類学博物館フィールドワーク「福井の遺跡を巡る」は、新型コロナウイルス感染拡大という状況下で、県をまたぐ移動や宿泊を伴うことのリスクを考慮して中止。代替として、愛知県内の考古遺跡を巡る企画を開催。

各回 10 名を上限として募集した。

- ◆第1回 12月 6日（日）瑞穂台地の遺跡 参加者10名
- ◆第2回 12月20日（日）『あいち朝日遺跡ミュージアム』と貝殻山貝塚 参加者9名
- ◆第3回 1月10日（日）名古屋市南区の古墳 参加者10名

⑤博物館講座

テーマ：「世界の考古学 1－西アジア・メソアメリカー」

今年度は、Youtube を利用してのオンデマンド配信による開催。

【配信期間：2020年12月23日（水）～2021年1月7日（木）】

- ◆「西アジアの歴史時代を発掘する－イラクとレバノンの最新調査成果から－」
講師：西山伸一(中部大学人文学部准教授)
- ◆「エジプト最古の階段ピラミッドはなぜ造られたのか」
講師：中野智章(中部大学国際関係学部教授)
- ◆「新大陸文明のはざまを掘る～中米ニカラグアを中心に～」
講師：南博史(京都外国語大学国際貢献学部教授)
- ◆「オルメカからマヤへ」
講師：伊藤伸幸(名古屋大学人文学研究科助教)

4講座一斉配信 受講申し込み：59名

⑥名古屋大学博物館連携講座「大学博物館が語る、地球と人類の歴史」

2016年度より開始した、名古屋大学博物館と連携しての連続講座。博物館資料を使いながら、両大学の研究者が解説。

今年度は Youtube を利用してのオンデマンド配信による開催。

無料および申し込み不要。各回 2 週間視聴可能。

- ◆第1回 10月 3日（土）～「生きている化石ウミユリの栄枯盛衰」
講師：大路樹生（名古屋大学博物館）
- ◆第2回 10月17日（土）～「縄文人と弥生人の出会い－歯からわかること」
講師：村松裕南（名古屋大学大学院情報科学研究科）
「ホネを見るとわかる掘削運動の多様性」
講師：仲井大智（名古屋大学大学院環境学研究科）
- ◆第3回 11月 7日（土）～「「現在（いま）」を生きる伝統
－宮古島・島尻のパーントゥ」
講師：湯屋秀捷（南山大学大学院人間文化研究科）
- ◆第4回 11月21日（土）～「農耕民と非農耕民との遭遇・接触
－東海地方における稲作の開始」
講師：黒澤浩（南山大学人文学部教授）

⑦博物館実習（他大学より受入）

本年度は3校より実習の申し込みがあり、Zoomを利用してオンラインにて実施。
（最終日のみ対面実習）

- ◆申込大学：愛知学院大学(1名)、中部大学(2名)、愛知大学(2名) 計5名
- ◆期 間：2020年9月23日(水)～10月21日(水) 毎週水曜日、計5日間
- ◆実施内容：展示制作（Web上での仮想展覧会）・イベント企画・資料梱包 等

⑧南山中学・高等学校男子部でのサテライト展示

- ◆2020年 6月17日（水）～ 8月25日（火） 石器、縄文土器、弥生土器、灰釉陶器
- ◆2020年 8月26日（水）～11月26日（木） 江戸時代貨幣、中国布銭、絵銭類
- ◆2020年11月27日（金）～2021年4月27日（火） アイヌ民族の生活資料

(2) 調査・研究活動

令和2年度愛知県博物館等職員研修会に出席

日 時：2021年3月12日（金）13:30～

場 所：名古屋市美術館 2階講堂

テーマ：「コロナ禍での博物館活動」

出席者：秦優莉香

(3) 研究協力

東京大学東洋文化研究所への研究協力

(4) 資料の収集・整備と利用

① 受贈資料

西江清高氏(本学人文学部)より 民族衣装など 18点

② 燻蒸の実施

○施設燻蒸G棟

5月24日（火） 施工前昆虫トラップ配置

6月13日（土） 施工前昆虫トラップ回収、燻蒸実施、施工後昆虫トラップ配置

7月 6日（木） 施工後昆虫トラップ回収

○施設燻蒸R棟

5月15日（金） 施工前昆虫トラップ配置

5月24日（日） 施工前昆虫トラップ回収、燻蒸実施、施工後昆虫トラップ配置

6月13日（土） 施工後昆虫トラップ回収

○包み込み燻蒸

7月13日（月）～16日（木）

燻蒸資料：山の田古墳出土山茶碗（11点）および山皿（2点）、動物のはく製（4点）、
鍬（3点）、貨幣（保存箱2箱分）、鏡（9点）、壺（3点）

③購入図書

9冊

④受贈図書数

発掘調査報告書	一般図書・紀要・年報・図録・研究報告等	たより類
1,505	405	327

⑤資料貸出

貸出先	資料名・点数	貸出期間	目的
愛知県陶磁美術館	西尾市清水遺跡出土 ・ 靱圧痕付き壺 ・ 線刻絵画壺 ・ 土偶 計 3 点	2020年 9月7日～ 12月27日	「あいち考古楽市」での展示 公開 (愛知県陶磁美術館特別展 「YAYOI・モダンデザイン」 に併せての開催)
南山大学人文学部 中尾央准教授	高蔵遺跡出土甕 (名古屋市 教育委員会 1987『高蔵遺 跡発掘調査報告書』名古屋市 文化財調査報告XXの遺物番 号PL.13_3)	2020年 10月1日～ 10月12日	東北大学にて展示 展示タイトル:宛先のない作 用一ダイガクにねむるモノ にまつわるゲイジュツ 展示方法: 実物ではなく、3D データ を 3D プリンタで印刷した 模型を使用

⑥取材・調査

来館者名	資料名・点数	実施日
島根大学法文学部 社会文化学科 岩本 崇氏	東寺山 1 号墳 神獣鏡 大須二子山古墳 画文帯神獣鏡 伝可児町土田 三角縁神獣鏡 出土地不明 四獣形文鏡 (紀要 35 号掲載)	2020年12月19日

⑦撮影・他機関刊行物等への掲載

機関名	資料名	刊行物名等	刊行予定
マガジンハウス ポパイ	館内写真 1点	雑誌 『POPEYE』	2020年 6月 9日
南山大学人文学部 中尾央准教授	遠賀川式土器 甕 1点	【研究利用のため撮影のみ】	

株式会社 博報堂ケトル	博物館入り口の写真 1点	Kita-Colle ART Talk	2020年 7月31日
福島市 文化振興 課 埋蔵文化財係	花輪台貝塚出土土偶 1点	企画展「土偶の世界 国宝土偶レプ リカ5体と福島の土偶展」図録	2020年 10月 9日
株式会社リクルート 住まいカンパニー SUUMO 新築マ ンション編集部	館内写真 1点	『SUUMO 新築マンション』 名古屋版	2020年 8月 4日
Landschaft	館内写真および資料写真 計6点	『こどもと大人のでつがくじかん て つがくするとはどういうことか?』	2020年 7月31日
愛知県陶磁美術館	西尾市清水遺跡出土 ・ 靱圧痕付き壺 ・ 線刻絵画壺 ・ 土偶 計3点	展示「あいち考古楽市」に関連して 出版する普及啓発資料	2020年 10月10日
有限会社 アート・エフ	二ツ木貝塚出土深鉢土器 1点	『定期テスト問題集 歴史Ⅰ 東書版』 『定期テスト問題集 歴史Ⅰ 帝国版』 『NEW BASIC 歴史Ⅰ 東書版』 『NEW BASIC 歴史Ⅰ 帝国版』 いずれも塾用教材	2020年 10月 5日
株式会社フォト・ オリジナル	縄文土器(千葉県出土) 1点	『中学 Winpass 社会歴』(紙媒体) 『デジタル Winpass』デジタル配信	2021年 1月 1日
名古屋大学博物館	マリンガーコレクション の石核 1点	学術雑誌 『Nature Communications』	2020年～ 2021年
有限会社 アート・エフ	二ツ木貝塚出土深鉢土器 1点	『NEW BASIC 歴史Ⅰ 教出版』 『定期テスト問題集 歴史Ⅰ 教出版』 『NEW BASIC 社会3年 東書版』 『NEW BASIC 歴史Ⅰ 日文版』 『定期テスト問題集 歴史Ⅰ 日文版』 いずれも塾用教材	2020年 11月16日 2020年 11月16日 2020年 11月16日
公益財団法人 常陽藝文センター	花輪台貝塚出土土偶 1点	月刊誌『常陽藝文』2020年12月特 集号『二〇二〇年『利根川図志』を 行く』	2020年 12月 1日
有限会社 アート・エフ	二ツ木貝塚出土深鉢土器 1点	『NEW BASIC 社会3年 日文版』 塾用教材	2020年 12月 7日
西尾市教育委員会 文化財課	清水貝塚調査写真 計7点	『令和2年度 考古学セミナー あいちの考古学』 配布資料および講座スライド	2020年 12月 5日

株式会社フォト・オリジナル	縄文土器(千葉県出土) 1点	『中学必修テキスト社会 歴史』 東京書籍版、標準版、帝国書院版、 教育出版版、日本文教出版版	2021年 1月25日
有限会社 アート・エフ	二ツ木貝塚出土深鉢土器 1点	『NEW BASIC 社会3年 教出版』 塾用教材	2021年 1月29日
株式会社 NHKグローバル メディアサービス	花輪台貝塚出土土偶 1点	NHK「ネット動画最前線」 1月4週分	2021年 1月18日
愛知学院大学 岡田紗耶香氏	恵日山遺跡出土資料	卒業論文	2021年 1月18日
株式会社 山川出版社	二ツ木貝塚出土深鉢土器 1点	文部科学省教科用図書 及び教科用特定図書 『高等学校地理歴史科日本史研究① ②』(仮名称)	2023年 4月予定
有限会社 アート・エフ	二ツ木貝塚出土深鉢土器 1点	2021年度『さなる式 歴史I』 塾用問題集	2021年 3月2日
竹倉土偶研究所	花輪台貝塚出土土偶 1点	『土偶を読む。』(仮題)	2021年 4月20日
有限会社 アート・エフ	二ツ木貝塚出土深鉢土器 1点	『定期テスト対策問題集 歴史I』 (標準版) 塾用教材	2021年 3月10日
言叢社	花輪台貝塚出土土偶 1点	『見出された縄文の母系制と月の文化 - 縄文の鏡>が照らす未来社会の像』(著 高良留美子)	2021年 3月
株式会社フォト・オリジナル	縄文土器(千葉県出土) 1点	『中学WinPass 社会 歴史』(発行元:株式会社文理)のデジタル配信(株式会社学研エデュケーショナルによる運営)から配信	2021年 3月1日
豊田市生涯活躍部 文化財課	市塚古墳出土鉄鉢(1959年撮影) 1点	「豊田市の古墳時代資料調査補遺 - 市塚古墳・豊田大塚古墳・荒山1号墳・梅坪遺跡-」(著 森泰通) 掲載雑誌:『豊田市史研究』第12号	2021年 3月31日
有限会社 アートエフ	二ツ木貝塚出土深鉢土器 1点	『サマー練成 中3 社会』 『カミングサマー 中3 理社合本』 『カミングサマー 中3 五科合本』 いずれも塾用問題集	2021年 5月10日

(5) 出版活動

本年度も例年どおり、2点の出版物を刊行した。

- ・『南山大学人類学博物館紀要』第39号
- ・『南山大学人類学博物館年報』2019年度 (Web掲載)

2. 人類学博物館の「理念」・「使命と役割」・「資料収集方針」の策定

(1) 「理念」・「使命と役割」

① 経緯とワーキンググループ

2019年度の人類学博物館評価委員会からの指摘を受けて、学内の教員から成るワーキンググループによって、人類学博物館の「理念」および「使命と役割」の策定作業を開始した。当初は9月頃の策定を目指したが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、作業日程が遅れることになった。また、ワーキンググループによる議論もオンラインで1回行ったほか、10回にわたってメールでの意見交換を行い、11月には成案を確定することができた。その後、若干の修正を経て、大学協議会で承認された。

ワーキンググループの構成は以下の通りである。

浅石卓真 (人文学部人類文化学科)

藤川美代子 (人文学部人類文化学科)

永井英治 (国際教養学部)

吉田竹也 (人文学部人類文化学科)

② 「理念」および「使命と役割」

人類学博物館の理念

南山大学人類学博物館は、神言修道会による研究活動から始まり、人類学・考古学をはじめとした人文諸学の学術研究の成果を全ての人と分かち合い、それを通して人類の多様性を尊重しながら、南山大学の教育モットーである「人間の尊厳のために」を実践する博物館です。また、大学博物館として、大学と社会とをつなぐ役割を果たし、そして、収蔵・管理する学術資料の研究を通して、学術研究の将来に向けた新たな展望を構築する努力をしていきます。

私たちが目指すのは「全ての人の好奇心のための博物館」です。

人類学博物館の使命と役割

使命と役割

(1) 人類学博物館は生涯学習機関であり、ユニバーサル・ミュージアムを目指す博物館です。

人類学博物館は、生涯学習機関として社会連携・社会貢献に資するとともに、年齢・性別・文化的背景・心身の障がいなどといった、社会に存在する様々な差異にかかわらず、全ての人が知的好奇心を充足できるユニバーサル・ミュージアムを目指します。

(2) 人類学博物館は学内の教育・研究活動と連携し、学術研究の発展に貢献します。

人類学博物館は、大学内の共同利用機関として、大学で実践される教育研究活動と連携し、その成果を推進し、発信していきます。また、学内外の研究者や諸機関と連携して、博物館資料に基づく新たな研究領域の開拓にも取り組みます。

(3) 人類学博物館は、新たな博物館の在り方を構想するため、様々な実験的な取り組みを展開します。

博物館は教育普及・調査研究・収集保存・展示をその機能としていますが、将来に向けて、その機能をさらに展開し、新たな地平を切り拓くための様々な可能性を探求し続けます。

(2) 資料収集方針

①経緯

資料収集の方針については、これまで人類学博物館では設けていなかった。しかし、2019年度の人類学博物館評価委員会よりそれは策定すべきとの提言を受け、人類学博物館資料評価委員会と協議をし、策定した。なお、これについても新型コロナ・ウィルス感染症の影響のため、対面での協議は行わず、人類学博物館運営委員会委員長と資料評価委員会委員長とで原案を作成した上で、オンラインでのミーティングと評価委員に対するメールで意見聴取を行い、全員の合意によって成案とした。

②人類学博物館資料収集方針（次頁）

(3) 展示パネル・クリアファイル・リーフレットの更新

人類学博物館の「理念」および「使命と役割」を策定したので、その周知を図るために展示パネルの一部とクリアファイル、リーフレットにそれらを掲載した。クリアファイル、リーフレットには点字も併記している。

南山大学人類学博物館の資料収集について

1. 南山大学人類学博物館でのコレクション収集の方針

広義の人類学の専門的博物館として、南山大学人類学博物館では、世界中の、あらゆる時代の学術資料を収集することを理想としています。しかし、実際には収蔵・展示スペースといった物理的な制約等から、収集資料に一定の基準を設けざるを得ません。そこで、ここに資料収集の方針を掲げておきます。資料の寄贈を希望される方は、ご確認ください。

2. 収集資料の特性による評価の基準

(1) 資料の種類

人類学博物館では、物質資料としての考古資料・民族誌資料・歴史資料・民俗資料・現代生活史資料およびその資料の背景情報の記録類を、以下の要件を満たすものについて収集します。

① 考古資料（含歴史資料）

- ア 出土地および原所有者が明確である資料。
- イ コレクションとしてのまとまりがある資料。
- ウ 収集者の収集意図が明確である資料。
- エ 造形的に評価できる資料。
- オ この分野に関する図表・写真・フィルム・レコード等。

② 民族誌資料

- ア 収集地が明確である資料。
- イ 収集年代が明確である資料。
- ウ コレクションとしてまとまりがある資料。
- エ 収集者の収集意図が明確である資料。
- オ 造形的に評価できる資料。
- カ この分野に関する図表・写真・フィルム・レコード等。

③ 日本の近現代の生活史に関する資料（現代生活史資料（含民具））

- ア 収集地・原所有者が明確である資料。
- イ 収集年代が明確である資料。
- ウ 用途・機能などがわかる資料。
- エ 入手（購入）の経緯がわかる資料。
- オ 使用当時の世相を反映していると評価できる資料。
- カ 背景情報となる文書等（取扱説明書・領収書等）がある資料。
- キ 当該資料に関する口承等（思い出、エピソード等）がある資料。
- ク この分野に関する図表・写真・フィルム・レコード等。

(2) 留意点

- ① 収集年代や地域については限定しません。
- ② 南山学園および南山大学関係者によるコレクションについて
南山学園及び神言修道会関係者の所有物で、なおかつ南山の歴史にかかわる史・資料については、その受け入れについて、南山アーカイブズと協議します。
- ③ 量について
対象資料の量が膨大な場合は、受け入れられないこともあります。

3. 組織と運営

(1) 組織

1) 職員

館長	奥田隆明	(副学長／経営学部教授)
担当教員	黒澤浩	(人文学部教授)
学芸員	秦優莉香	(特別嘱託職員)
	井原瑠梨	(特別嘱託職員)
事務員	中村奈々恵	(専任嘱託職員)
	武本美和子	(臨時職員)

2) 博物館運営委員会

委員長	黒澤浩	(人文学部教授)
委員	谷口佳津宏	(人文学部教授)
	渡部森哉	(人文学部教授)
	林順子	(経済学部教授)
	上峯篤史	(人文学部准教授)
	石井知好	(教育・研究支援事務室長)
事務局	教育・研究支援事務室 (人類学博物館)	

3) 資料評価委員会

委員長	渡部森哉	(人文学部教授)
委員	林順子	(経済学部教授)
	上峯篤史	(人文学部准教授)
事務局	教育・研究支援事務室 (人類学博物館)	

(2) 開館・入館者実績

2020年4月14日(火)～9月13日(日) 全面休館

2020年9月14日(月)～南山大学生に限り利用開始

開館日数・入館者数

開館日数	入館者数	団体(授業)数	団体(授業)人数
91	163	8	33

学生による研究のための利用 67件 (2020年9月16日～2021年1月27日)

4. 規程

(1) 南山大学人類学博物館規程

(目的)

第1条 南山大学学則第44条の2にもとづき、本学に南山大学人類学博物館（以下「博物館」

という。)を置く。

② 博物館は、「人類学(文化資源学、考古学、民俗学および民族学を含む。)」(以下「人類学」という。)に関する資料の収集、調査、解析、収蔵、管理、保存、展示、公開などを行ない、本学の学生、職員および社会の利用に供し、教育・研究に資することを目的とする。

③ 博物館の組織および運営については、この規程の定めるところによる。

(事業)

第2条 前条第2項の目的を達成するため、博物館は、次の各号に掲げる事業を行なう。

- 1 人類学に係る調査、収集、保存、管理および解析
- 2 人類学の展示および公開
- 3 人類学に関する情報提供
- 4 人類学に関する教育研究の支援
- 5 博物館所蔵資料を利用した生涯学習の企画および運営
- 6 博物館および博物館に従事する職員の資質向上に寄与する学芸員の養成

(館長)

第3条 博物館に館長を置く。館長は副学長(教学担当)とする。

② 館長は、博物館の事業を統轄し、博物館を代表する。

(担当教員)

第4条 博物館に博物館担当教育職員(以下「担当教員」という。)を置く。

② 担当教員は、博物館活動の企画・運営に従事する。

③ 担当教員は、学長が推薦する候補者について、大学評議会の議を経て、学長が委嘱する。

(運営委員会)

第5条 博物館の運営に関する重要事項を審議する機関として南山大学人類学博物館運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

② 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(資料評価委員会)

第5条の2 第2条第1項第1号に定める収集事業を適正に遂行するために、南山大学人類学博物館資料評価委員会(以下「資料評価委員会」という。)を置く。

② 資料評価委員会に関する規程は、別に定める。

(規程の改廃)

第6条 この規程の改廃は、大学評議会の議を経て、学長の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営について必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2015年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2019年4月1日から施行する。

(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する重要事項を審議することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）
- 2 博物館学芸員養成課程委員会委員長
- 3 学長より推薦された者若干名

② 委員は、大学評議会の議を経て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 1 博物館の予算（案）および決算（案）に関する事項
- 2 博物館資料の収集に関する事項
- 3 博物館関係規程の制定または改廃に関する事項
- 4 博物館の事業に関する事項
- 5 その他博物館の管理運営に関する重要事項

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、担当教員をもってあてる。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、特に定めのある場合のほか、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
(博物館資料の収集)

第5条 委員会は、博物館が収集しようとする資料について、南山大学人類学博物館資料評価委員会にその受け入れの可否を諮問することができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、大学評議会の議を経て、学長の承認を得なければならない。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2015年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2019年4月1日から施行する。

(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程

(目的)

第1条 南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条の2にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）において行う博物館資料の収集に関する事項を協議することを目的とする。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 南山大学人類学博物館運営委員会委員2名
- 2 博物館長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の議を経て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、博物館が収集しようとする資料について、その受け入れの可否を、南山大学人類学博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）の諮問に基づき、協議する。

② 委員会は、協議の結果を速やかに運営委員会に報告する。

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- ② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- ③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
- ④ 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。
- ⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規程の改廃)

第6条 この規程の改廃は、大学評議会の議を経て、学長の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2006年7月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2015年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2019年4月1日から施行する。

(4) 南山大学人類学博物館ボランティア規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）におけるボランティア（以下、「博物館ボランティア」という。）の活動内容および登録手続等を定める。

(目 的)

第2条 博物館ボランティアは、博物館と共働して教育普及活動の向上に取り組み、利用者と博物館資料および博物館との交流を促し、「すべての人の好奇心のための博物館－ユニバーサルミュージアム」の実現と発展に寄与することを目的とする。

(活 動)

第3条 博物館ボランティアは、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- 1 館内における利用者の誘導、展示室における展示解説ならびに監視
- 2 その他、博物館事業への協力活動

(活動上の原則)

第4条 博物館ボランティアの活動は、博物館の教育普及活動の一部に携わるものであるため、ボランティアは、一定の規律と責任が伴うことを自覚し行動する。

- ② 博物館ボランティアは、その活動に関して個人情報等を適正に取り扱う義務を負うとともに、個人情報および活動上知ることのできた秘密について守秘義務を負う。ボランティア登録を取消した後も同様とする。

(登 録)

第5条 博物館ボランティアへの登録は、人類学博物館事務室（以下「事務室」という。）に申

請するものとし、人類学博物館運営委員会委員長がこれを承認する。

② 博物館は、ボランティア登録の承認が得られた者に対し、「ボランティア証」を交付する。

(登録取消)

第6条 ボランティアの資格は、次の各号の一に該当するときは登録取消とする。

- 1 登録取消の申し出が本人より事務室へあったとき
- 2 第4条に違背する行為があったと認められるとき

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、人類学博物館運営委員会および大学評議会の議を経て、学長の承認を得なければならない。

附 則

この規程は、2014年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2015年4月1日から施行する。

2021年5月14日 印刷

2021年5月14日 発行

南山大学人類学博物館年報 2020年度

編集・発行 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町18

phone 052 (832) 3147

印刷 株式会社ウエルオン

460-0007 名古屋市中区新栄3-21-31

phone 052 (732) 2227